

# 景況実感調査(2020年10月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

## 薄板・表面処理鋼板

- ① 高炉メーカーのロールがかなりきつくなり、市中でも歯抜けサイズが出てくるようになり、引合いも増えてきたので良好な状況になりつつあるが、値上げに踏み切るまでには需要の盛り上がりもう一段欲しいところ。
- ② 稼働日 22 日と対前月比 2 日増となるも、売上、数量共に微増に止まった。ここ数週間で急速に品薄感が拡がり、店売り玉はメーカー減産と申込みの縮小が重なった事、また自動車関連の増産継続が発表され薄板の仮需が発生したようだ。市況は上昇というより、のみ成る感、無い物高の局面が少なくとも 3 カ月位はマーケットを覆いそうだ。ゼロ金利下でもリスクテイク出来ない業界が陥る合成の誤謬の繰り返しか。
- ③ 10 月は前月比で 2 カ月連続微増となり、徐々に需要が回復しているように感じる。店売り材料はメーカーの供給が追いついておらず、品薄感が顕著で無い物高の状況になっている。これから寒い時期を迎えコロナが再流行し、回復しつつある経済が失速しないことを願う。
- ④ 稼働日が増えた分、売上増につながった。ただし、日当たりから見ると同じであった。
- ⑤ 9、10 月と一応目標を達成したが、11 月以降、引合いが多くなるよう営業努力をすするしかないと思う。
- ⑥ とにかくメーカーからの入荷が悪く、引合いに対応しきれていない。相場はじり高となっているが、今後メーカーから入荷してくれば各社デリバリー対応するため落ち着くと思われる。ユーザーからは引合いが少なく、仲間売りのみ活気があるだけ。無い物高である。
- ⑦ 9 月に引き続き 10 月も店売り向けのメーカーからの入荷が遅れている。年末に向けて、まとめて入荷すると受給のバランスが崩れ、価格に悪影響が出ないことを願う。

## 中板

- ① 9 月の薄板三品在庫が 10 年ぶりの 366 万トンという大幅減少に表れているように、歯抜けが散見され、これまで連絡の無かった取引先からも引合いが見られるなど、景気回復を錯覚させる雰囲気すら感じる。ただ、これまでユーザー・流通共に在庫を絞りに絞ったところに供給削減が来ただけで、実需が増加しているものとは思えず、むしろ年明け以降メーカーの増産体制が整って後の需給バランスの崩れが懸念され、実需動向をよく見極めながら、流通も的確な対応が肝要と考える。

## 厚板

- ① 販売量は前月比では若干増加したが、前年同月比では 3 割超の減少。建産機関連主要ユーザーの稼働は低迷が続いて、回復の兆しが見られない。紐付き価格の上昇は必至と言われているものの、あくまで生産量に応じた需給状況に終始している。土木案件は手堅く推移しているが、物件の小型化が目立ち重量につながらない。素材販売は前月比にて横這い。引合いのあるのは建築部門の一部に限られており、中板にみられるような逼迫感はない。足許の回復は見込まれないことから、年度末に向けて受注が改善することを願いたい。

## — 舟安开形鋼

- ① 一日当たりの売上高は6月からの下落傾向が収まった感があるが、前月比横這い。売上数量、収益状況は収まらず、前月比微減。いつ頃前月比で反転するかより、横這いになるのが目下の最大関心事であり、課題。
- ② 今年は現場が減少しており、売上も見込めず。来年も1年間、現場が出てこないとの情報が入っている。とても厳しい。

## 工工开形鋼

- ① 10月の倉出しは増加。前年同月比では微減。土木向けの需要があり、中小案件の引合いも増えて、秋需を感じた月だった。値上げ玉の入荷で採算が悪化しているため、早急に価格転嫁を実行する。
- ② 売上数量は稼働日の増加もあり9月比で増加も、需要期である10月としては例年のような盛り上がりには欠けた状況。建築関係においては、新型コロナウイルスの影響は今後本格化してくると思われ、とくに我々の倉出しに直結する中小物件は延期、中止が見込まれ、数量に期待できない分、適正マージンの確保に注力するしかないと思われる。

## 異形棒鋼・鉄線

- ① 10月は22日稼働と、後半になり前年とは比較にならないが、秋需が出てきて数字はまとまった。11月までこの流れかと思う。単価も建値2円/kgは上がった。しかし、12月以降、コロナ、稼働日などから厳しくなっていくのではと危惧している。
- ② 需要が縮小している中、スクラップ市況は高止まり。メーカーは強気姿勢で販価を押し上げている。店売りマーケットの荷動きは閑散で売上不振であるが、メーカーの姿勢を反映して流通も製品価格が上昇するように対応している。

## 平鋼

- ① 値上げの影響で、地方では一部仮需が発生しているが、関東圏は依然として動きが鈍い。需要無き値上げのため価格転嫁には時間が掛かるが、ご理解を得ながら転嫁していきたい。

## 車巻開形鋼

- ① 店売りは少し良くなったが、低調な商いが続いている。11月も少し良い状態が続いてくれると良いが不透明な状況だ。
- ② 10月も稼働日が多い分のみ増加となった状況。

## 鋼管

- ① 荷動きは前月に比べ上向いてきたが、この時期としては低水準であり多忙感はなく、先行きも不透明である。
- ② 10月の日当たりの数量は前月比微増。各メーカーの値上げ発表を受け、11月再販価格改定アナウンスにより月後半の受注・引合いが若干伸びた。

## 構造用鋼

- ① 需要動向は、自動車関連が回復傾向で、建機、産機でも一部で荷動きが出ている状況。店売りはなかなか上向かず、横這いで推移している。在庫は高止まってはいるが漸減傾向。市況は一部で安値も見られるが市況への影響は少なく、しばらくは横這いでの推移見込まれる。

## 磨棒鋼

- ① 5～7月を底として日々の出荷量は明らかに回復傾向となってきた。自動車向けの紐付き品については、一部を除き急速に受注が増加しており、供給が間に合わない物件も出てきた。店売りは現状では今一步だが、大ロットの出荷につられる形で年末までには回復してくるものと思われる。

## その他

### <鉄線・ナマシ>

- ① 鉄線、ナマシの単価は来年早々に上がりそうだ。売上数量は公共事業向けが年末・年度末に向け増えてくる。前年と比べるとコロナの影響でやや減少している。

### <鉄スクラップ>

- ① スクラップの発生量は引き続き低調。スクラップ相場は国内でも地域によってメーカーの粗鋼生産量に差があるようで、西と東とで価格差が出ている。海外相場も不安定。

### <金属表面処理>

- ① 10月は、物件物は予定通りの計画扱い量となったが、スポットの引合い、受注量が実需停滞からか予想以上に低調であった。11月も同様の操業となりそう。